広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER
リーダーたちの本棚 VOL.47

本は、心の中の泉を潤し 水量を増やし、水底を深める

東京建物 代表取締役社長
佐久間 一さん
さくまはじめ

オフィスビルやマンションなどの開発・運営を手がける東京建物。創業者の安田善次郎氏が唱えた「よろず程の良き」「慈悲深き」「正直」を経営の幹とし、「総合力」「現場主義」「スピード」を社是に掲げる佐久間一さん。読書は世界文学全集に親しんだ幼い頃からの習慣で、社員に良書を紹介することもあるという。「読書は人の心を育んでくれるものだと思います。推薦するのは、読んで豊かな気持ちになれた本、視野が開けた本など。仕事に直接関係がないジャンルのものでも、機会があれば読書の魅力は伝えていきたいですね」

READING

世界の未来と日本のあり方を示す書

就寝前の読書は長年の習慣です。本社のある東京の八重洲にはいい書店が点在しているので、昼休みなどに立ち寄るのが楽しみになっています。本の魅力に初めて気づかされたのは、小学生の頃に読んだ『子鹿物語』です。

最初に紹介するのは、『文明の衝突』です。文化や宗教観から世界は八つの文明圏に大別できるとし、文明の衝突は世界平和にとって最大の脅威であり、文明に基づいた世界↖秩序こそが紛争を防ぐ安全装置であると指摘しています。現在の世界情勢を見渡すと、著者が警告を発した20年前よりも文明の衝突は先鋭化しているように思います。西欧圏とイスラム圏の対立をはじめとする世界の課題にどう向き合うべきか。日本人としては、文明の固有性を自覚しつつ異なる文明圏とどうつき合ったらいいのか。多様性を認める一方で普遍的な共通性を追求することの意義を説く本書は、今なお一読の価値があると思います。

もともと西洋史が好きで、40歳から3年半ほどロンドンに駐在したこともあり興味を引かれたのは、『大英帝国衰亡史』です。巧みな外交術や植民地政策によって栄えたイギリスの成長史とともに、アメリカ独立戦争やボーア戦争などを境にたどった衰退の道程をつづります。かつて日本は外交の模範をかの国に求め、例えば幕末に薩英戦争を戦った東郷平八郎は、維新後、同国に留学しました。本書によれば、彼が活躍した日露戦争の頃には「帝国の落日」は始まっています。しかし、ノーブレス・オブリージュ（位高ければ徳高きを要す）の精神、富の温存、引き際の美学など、衰退の課程にも習うことは多いと思いました。

わくわくしながら読んだ 小さくて大きい宇宙の話

次は、『宇宙は何でできているのか 素粒子物理学で解く宇宙の謎』です。「ビッグバン直後の宇宙は素粒子の世界だったのではないか」という視点から宇宙の起源に迫っています。「星やガスなど原子以外の『暗黒物質』や『暗黒エネルギー』が宇宙の約96%を占め、その正体はいまだ不明である」「宇宙は加速しながら膨張し続けている」といったSF映画のような話をわくわくしながら読みました。宇宙から飛んできたニュートリノを世界で初めて捕まえた「カミオカンデ」や、ノーベル物理学賞に輝いた「小林・益川理論」など、日本の物理学研究が謎の解明に貢献していることにも触れています。東京大学数物連携宇宙研究機構（IPMU）機構長で物理学者である著者の村山斉氏は、「こんなことを調べて一体何の役に立つ?」という質問を受けたとき、いつも「日本を豊かにするためです」と答えるそうです。経済ばかりでなく、心や文化も豊かにすると。私は本書をグループ企業内で配布されるグループ報で紹介しました。「この本が何の役に立つ?」と聞かれたら、同じように答えると思います。

『孤愁の岸』は、濃尾三川の治水事業にかり出された薩摩藩の艱難辛苦（かんなんしんく）をつづった歴史小説です。薩摩藩の弱体化をねらう幕府によって膨大な工事費と労働を課せられ、理不尽ないざこざの責任を取るため、あるいは幕府への抗議のため、次々と自害していく藩士たち。そんな中、工事の総指揮官である家老の平田靱負（ゆきえ）は、藩費の空費を避ける策を練り、公儀の横暴に耐え、「平時のいくさ」を戦い抜きます。そして工事の完成後、腹をかき切って果てました。人を指揮し、責任を取るとはどういうことか。重たい内容ですが、深く考えさせられました。私が生まれた岐阜県が舞台ということもあり、心に残る一冊です。

心がホッとなごむ 座敷わらしと家族の物語

最後は、近年読んだ小説の中でも特に気に入った『愛しの座敷わらし』です。ごく平凡なサラリーマンが東京から東北の田舎に転勤となり、一家で引っ越すところから物語は始まります。食品会社の課長で出世の見込みがない夫、うつ気味のその母、夫に幻滅している妻、東京では友達ができず、父との相性が悪い中学二年の娘、ぜんそくの持病がある心やさしい小学四年の息子。それぞれに不満や悩みを抱え、家族関係はどこかぎくしゃくしています。そんな一家が、引っ越し先の古民家に住みつく座敷わらしの存在を介して心を通わせ、絆を深めていくさまをほのぼのと描きます。座敷わらしの描写が何ともかわいらしく、しぐさや居ずまいを想像するだけで笑顔になれました。ファンタジーですが、登場人物の心の動きがリアルで、子供たちの友情や初恋物語としても楽しめます。秀逸なのは、ラストの一行。驚きと幸福感に包まれてページを閉じました。

ジャンルや硬軟に関係なく、本は心の中にある泉を潤し、水量を増やし、水底を深めてくれるものだと思います。それをしみじみと感じながら読めた5冊を紹介しました。

LEADING

都市開発のテーマは「ソフトの充実」

東京建物の最新トピックスは、3月に誕生する「東京スクエアガーデン」。京橋駅直結のビルで、太陽光発電や地中熱利用システムなどの最先端技術を採用し、一般的なオフィスビル対比でCO_2排出量約45%減を実現。都内主要オフィスビルの中でもトップレベルの環境対応型物件だ。

「省エネや防災対策などハードの充実はディベロッパーとして当然の責務。加えて大事なのはソフトの充実です。東京建物のオフィスやマンションに入居したいというモチベーションを喚起できるサービスを追求しています」

外国語の通じる病院や保育園をテナントに迎える、分譲マンションの開発に働く女性の声を生かすなどの取り組みもソフトの充実の一環だ。外国人や女性にとって快適な環境を提案する意義について、佐久間さんは語る。

「東京は、インフラや安全性などにおいて世界に誇れる都市です。ただ、近い将来、少子高齢化による就労者数の減少が予想されます。変わりゆく人口構造の中で、いかに東京の魅力を維持し、アジアのハブとしての機能を高め、人を呼び込む都市にするか。そうしたことも我々に課せられた責務だと認識しています」

地域のニーズに合ったハードとソフトを提供

昨年完成した「中野セントラルパーク」は、緑豊かな公園に囲まれたオフィスビルだ。大手町の再開発事業では、ビル街に約3600㎡の「大手町の森（仮称）」を創出する。東池袋の再開発では、駅周辺を高層化し、豊島区役所と住居の融合をはかる。「プリリアシティ横浜磯子」では、電柱や駐車場を地中化し、東伏見邦英伯爵別邸や旧来の桜並木をマンション敷地内に残す。地域との共生や自然景観の保護も開発の主眼に据えている。

佐久間さんは、高度成長のさなかに大手銀行に入行。東京建物に入社後はリーマンショックを味わった。幾多の波にもまれる中で培ったビジネス信条は、平常心。「ひとり勝ちは長続きせず」との思いも深めた。「どんなビジネスにも異なる立場の意見があり、競争相手がいる。己だけ見ていたら物事は回りません。創業者の安田善次郎が唱えた理念の一つ、『よろず程の良き』は、今なら『Win-Win』という言い方もできると思いますが、私も他者と共に幸せになれる答えを見つけたい。金融資本主義社会では甘いと言われるかもしれませんが、私にはそれしかできないし、目指すべきだと思っています」

1948年岐阜県生まれ。71年東京大学法学部卒。同年富士銀行（現みずほ銀行）入行。98年取締役。02年みずほ銀行監査役。03年東京建物常務取締役。10年副社長。12年2月から現職。

好きな言葉は、「一燈照隅（いっとうしょうぐう）」。経営者として、常に肝に銘じている。

「小さな一燈でも一隅を照らすことはできる。すなわち、人は誰でも世の中のためになれる。一燈の明かりが増せば、広い範囲を照らすことができる。すなわち、己を高めて役目を全うすれば、大きな力になれる。創業者の理念を支えに一燈をともし続けていきたい」

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、佐久間一さんが語るリーダー論を紹介しています。http://adv.asahi.com 朝日新聞 広告 検索

佐久間一さんがすすめる5冊

『愛しの座敷わらし』
（朝日新聞出版）荻原浩・著
生まれてすぐに家族になるわけじゃない。一緒にいるから、家族になるのだ。東京から田舎に引っ越した一家が、座敷わらしとの出会いを機に家族の絆を取り戻してゆく、ささやかな希望と再生の物語。朝日新聞好評連載を単行本化。

『孤愁の岸』上・下巻
（講談社）杉本苑子・著
財政難にあえぐ薩摩藩に突如濃尾三川治水の幕命が下る。外様つぶしの策謀と知りつつ薩摩藩士たちは濃尾の地に赴いた。利に走る商人、自村のエゴに狂奔する百姓、腐敗しきった公儀役人を相手とした勝算なき戦い、「宝暦大治水」を描く長編。

『宇宙は何でできているのか 素粒子物理学で解く宇宙の謎』
（幻冬舎新書）村山斉・著
物質を作る究極の粒子である素粒子。物質の根源を探る素粒子研究は宇宙誕生の謎解きに通じる。「すべての星と原子を足しても宇宙全体のほんの4%」「宇宙の大部分を占めるお化けエネルギーとは」など、やさしく楽しく語る素粒子宇宙論入門。

『大英帝国衰亡史』
（PHP研究所）中西輝政・著
世界に覇を唱えた大英帝国。なぜ大国は滅びていったのか。19世紀半ばから20世紀半ばに至る衰亡の流れを検証。ボーア戦争、第1次大戦などに潜む没落への精神的要因を掘り下げ、ゆるやかで豊かな「衰退の知恵」「滅びの理」に迫る書。（品切れ、重版未定）

『文明の衝突』（集英社）
サミュエル・ハンチントン・著 鈴木主税・訳
政治学者の著者が、冷戦後の国際紛争は文明による衝突であると指摘。世界の枠組みを、中華・日本・ヒンドゥー・イスラム・西欧・ロシア正教会・ラテンアメリカ・アフリカという八つの文明圏に分け、21世紀の国際情勢を大胆に予測する。

おかげさまで創業80周年 三笠書房
千代田区飯田橋3-3-1
http://www.mikasashobo.co.jp
◎(株)ブックライナー〈フリーダイヤル〉0120-398899(9:30〜19:00)からもご購入いただけます。
◎書籍の詳しい内容は弊社HPをご覧ください。◎価格はすべて税込み。

王様文庫
眠れないほど面白い『古事記』
由良弥生
愛と野望、エロスが渦巻く壮大な物語
読み始めたら、もうやめられない!
ISBN978-4-8379-6969-1 ●630円
売れてます! 15万部突破!!

プロフェッショナルの絶対「目標達成法」
最新刊
合理的に結果を出す“6つの習慣”
仕事の結果には100点か0点しかない!
井上裕之
ISBN978-4-8379-2484-5●1365円

世界が一目置く日本人、残念な日本人
辺真一（ビョン ジンイル）
ISBN978-4-8379-2491-3 ●1365円
日本が韓国、中国に抜かれることはない!
知らないことは恥ではない。罪だ!
最新刊

32万部突破!の大好評ベストセラー
「世界一わかりやすい「速読」の教科書」
著者待望の最新作!
医学博士 斉藤英治
超! 世界一たのしい「速読」勉強法
「読書」「仕事」「資格試験」…人生に奇跡を起こすトレーニング!
ISBN978-4-8379-2486-9 ●1470円
聴くだけで頭がよくなる! 速読耳トレーニング用 特殊音源CDつき!
イラストレーション：高田真弓

たちまち重版!
脳には、自分を変える「6つの力」がある。
リチャード・テデッドソン シャロン・ベグリー
茂木健一郎[訳]
ISBN978-4-8379-5769-8●1470円
1「気持ちを切り替える」
2「前向きな自分を保つ」
3「人と共感する」
4「自分と向き合う」
5「まわりの空気を直感的に読む」
6「一つのことに集中する」
この脳の「6つの可能性」が広がると、「いいこと」が次々やってくる!
——茂木健一郎
写真=©富本真之

里中李生のベストセラー
「いい人」は成功者になれない!
男の値打ちは、仕事と女と金で決まる
「NOが言えないことは、男にとって最大のリスクだ」
■自分に「嘘」をついている男は弱い ■「清濁併せのむ」器量を身につけよ
■「潔しとしない」精神も必要 ■男なら、「やられたら必ずやり返せ」
■「理不尽なこと」には、もっと怒れ ■「バカがいる空間」に近づかない
■「礼儀」だけは失してはならない……
ISBN978-4-8379-2489-0●1000円
たちまち3刷!